

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)

大学院学生研究

2015年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院 文学研究科 ドイツ文学専攻		
研究代表者 (2016年3月現在のものを記入)	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	文学研究科・ドイツ文学専攻・博士課程後期課程1年	馬場 大介 印	
指導教員	所属・職名	氏名	
	文学部・ドイツ文学専修・教授	前田 良三 印	
自然・人文・社会の別	自然 ・ <input type="checkbox"/> 人文 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 社会	個人・共同の別	<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 共同 名
研究課題	日独学術交流とその諸問題 —カール・フローレンツの日本研究における日本観と学問観		
研究組織 (研究代表者・共同研究者) ※2016年3月現在のものを記入	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	文学研究科・ドイツ文学専攻・博士課程後期課程1年	馬場 大介	
研究期間	2015 年度		
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 197,838 円 / (採択金額) 200,000 円		

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

明治時代に東京(帝国)大学でドイツ語・ドイツ文学を教えた文献学者・日本学者カール・フローレンツが著した『日本文学史』を19世紀ドイツの学問史の枠組みの中で解釈する学問史研究である。その枠組みは、文献学、文学史記述、東洋研究の3つ観点から設定される。第1にドイツでゲルマン学科が文献学の影響下でどのように発達していったのかを考察する。第2に19世紀の国民文学史がどのように記述されたのかを、先行研究をもとに主要な文学史家の作品を比較する。第3の課題は、フローレンツの学んだライプツィヒ大学の東洋言語文献学科の制度史に目を向ける。以上から19世紀ドイツの学問の規範化のプロセスを導き出し、フローレンツが日本文学史をどのように解釈したのかを明らかにする。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[19世紀ドイツ学問史] [カール・フローレンツ] [『日本文学史』]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

2015 年度の SFR の助成を受けて、以下の成果が上げられた。

第 1 に、先行研究の文献を分析することにより、上述の 3 点のアスペクトが厳密になった。19 世紀ドイツのゲルマン学科の発達史に関しては、政治に迎合していくプロセス、教育制度への参与、他の学科に対する独自性すなわち自己理解、団体間のコミュニケーションの実情に論点を絞った。文学史記述に関しては、国民文学という枠組みのもと文学史を展開した代表的な人物 12 名をピックアップした。さらにこれらの文学史を、観念図式、時代区分、使用概念、人物・作品・時代の配分の仕方から考察すべきと結論付けた。従って、立教図書館の蔵書にない専門書を購入したことには意義が認められる。加えて、購入した辞書類も、分析の際に役立った。

第 2 にカール・フローレンツの経歴を調べる上では、購入したデジタルカメラおよびその機材が大いに役に立った。つまり、東京大学の図書館へ赴き撮影した資料から、フローレンツに関する詳細な情報を手に入れた。これは先行研究からは窺い知れなかった。

第 3 に、2015 年 10 月に鹿児島で行われた日本独文学会秋季発表で、フローレンツ研究者の発表を聞き意見交換をした。これによって、研究代表者の研究の進捗状況に一石を投じることができたと考えている。具体的には、その発表者と幾人かの有識者の質疑応答を通じて、明治時代以前の日独の学問情勢とその現代における評価・観点を知ることができた。これは、この学会に参加しなければ得られなかったと思われる。

本資金を得て以上の 3 点の明確なステップを踏んだことが、私の本年度の研究上の成果である。この成果が来年度以降の研究発表・業績に直結することは間違いなく、そのための布石としての意義が主張できる。

研究成果の概要 つづき

※この(様式2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

①～④該当なし